

《巻頭言》

第13回日本禁煙学会・山形学術総会を終えて

脱ニコチン！依存症からの解放

—環境・治療・教育 三位一体の禁煙推進—

第13回日本禁煙学会学術総会 会長
日本禁煙学会 理事

川合厚子

はじめに

2019年11月3日(日)から4日(月・休)の二日間にわたり山形テルサにおいて第13回日本禁煙学会学術総会(JST 2019山形大会)を開催いたしました。おかげさまで学術総会のみで1,100名以上、関連事業を入れますと1,400名以上の方が参加くださいました。参加された皆様、本当にありがとうございました。

当初は、これまでの開催地は大都市がほとんどであり、人口25万人ちょっとの地方都市である山形市にどのくらいの方が来てくださるか懸念もありました。そこで組織作り、プログラム、広報、おもてなしに力を入れました。

当時、私は2000年に設立された山形県喫煙問題研究会(ykk)の会長をしており、禁煙関係の全国大会も3つ経験しておりましたが、日本禁煙学会のような大きな学術総会は初めてでした。関係者に相談し、山形県医師会長に共催をお願いし快諾を得て、関係7団体で共催できることになったのは本当に心強くありがたいことでした。山形県においては2003年に山形県四師会禁煙推進委員会が設立され、山形県医師会、同歯科医師会、同薬剤師会、同看護協会が一緒になって行政とも連携をとりながら禁煙推進活動を進めてきました。また山形市医師会は2018年に「山形市受動喫煙防止条例」および「子どもを受動喫煙から守る条例」の制定を求める要望書を提出するなど動きが活発になっています。この6団体に川合勤務先で先進的な精神科医療を中心とする社会医療法人公徳会の7団体の実行委員からなる実行委員会は11回開催され、学術総会中は両日とも100名以上が運営に携わりました。細かいところはykkのメンバーによる26回の準備会で企画立案しました。プログラムは自分が

聞きたい内容を組み入れ盛り沢山となりました。広報は学会本部のtc通信やHPのほか、メンバーがあらゆる機会をとらえてチラシやスライド等で行いました。概要と山形の魅力を盛り込んだ音楽付きのプロモーションスライドも作成し、好評でした。

学術総会の詳細はプログラム・抄録集のWEB版 <https://site2.convention.co.jp/jstc2019/>を見ていただければ幸いです。

1. 学術総会のテーマ

「脱ニコチン!依存症からの解放」「ニコチン」という中毒性薬物、もっと言えば“タバコ”にとらわれてしまった人や社会を、“ニコチン”、それを含むタバコから自由になれるようにと皆で考えました。そして山形で取り組んできた「禁煙環境の拡大・禁煙支援・喫煙防止教育の推進」を学術総会にも反映させようと「環境・治療・教育 三位一体の禁煙推進」をサブテーマとしました。

2. 特別講演

日本医師会長の横倉義武先生から「日本医師会の禁煙推進」についてお話をいただきました。紹介された「禁煙は愛」(2017年作成)はとてもわかりやすいパンフレットで<http://www.med.or.jp/forest/kinen/>から、ダウンロードもできます。また、2018年に受動喫煙のない健康な未来を目指していることを訴えるために作成した動画は日本アドバタイザーズ協会「第57回JAA広告賞」屋外・交通広告部門メダリスト受賞し、東京・渋谷の大型ビジョンで放映されたそうです。こちらは<http://www.med.or.jp/people/cm/000001.html>から見る事ができます。時間が短くお話し切れなかったことがたくさんあると拝察しますが、日本医師会ホー



写真1 特別講演 横倉義武会長



写真2 理事長講演 作田学理事長



写真3 会長講演 川合厚子

ムページで「禁煙」で検索するとたくさんの事業が出てきます。大きな影響力を持つ日本医師会の禁煙推進力に大きな期待を抱きました。

3. 理事長講演と会長講演

- ① 作田学理事長は「喫煙者に目覚めを。ニコチン奴隷をタバコ産業から解放しよう」と題して、タバコビジネス、ニコチンはヘロインコカインにつぐ依存性薬物(2008年ランセット)で奴隷にする、加熱式タバコ・電子タバコへの警鐘、喫煙者の敵はタバコ産業、等講演されました。
- ② 会長講演は「精神科における禁煙推進 過去・現在・未来」と題して川合が講演しました。これまで精神科においてタバコは「無視されてきた問題」でしたが、関係各位の尽力により敷地内禁煙の精神科病院が増えてきました。一方、精神科医療機関の禁煙外来は少なく100にも満たな

い状況です。精神疾患患者は突然死が多く、その過半数は心筋梗塞が原因で喫煙が大きく関与していると推定されます。環境を整えるとともに、米国や欧州のようにガイドラインを作成しニコチン依存症を精神科医療機関も治療していく体制が望まれます(図1)。

4. 教育講演

日本遠隔医療学会の長谷川高志先生に「オンライン診療を禁煙指導に活かす—遠隔医療の視点から—」と題してオンライン診療とは何か、から展望、課題についてお話いただきました。期待される医療手段である一方、その特性や短所長所を熟知して活用する必要があることを強調されました。

5. シンポジウム

- ① 「ICTを活用した禁煙治療」教育講演を受けて

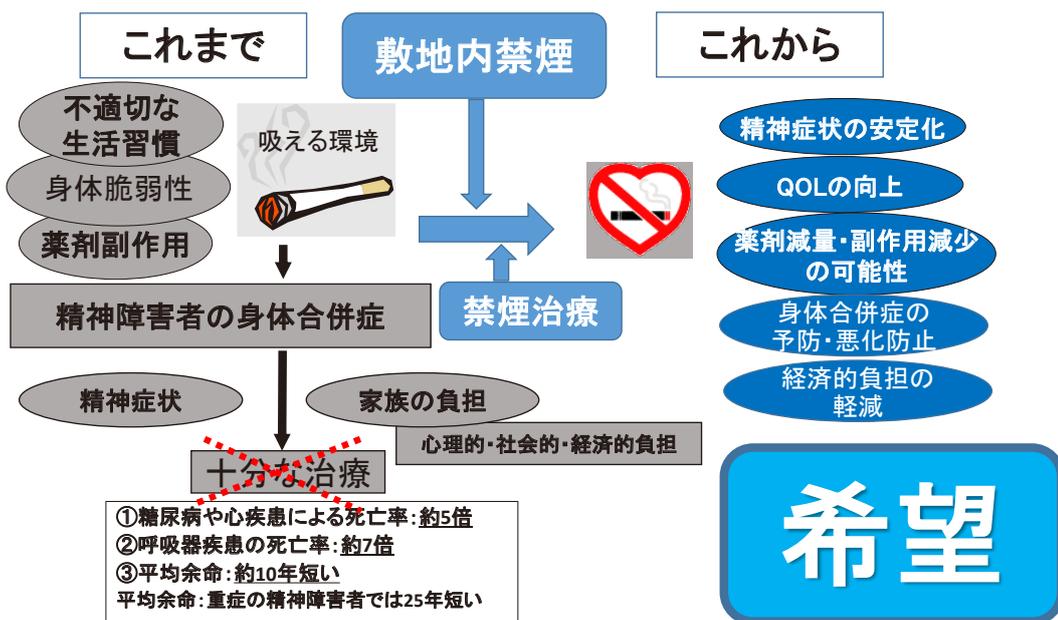


図1 精神科において禁煙の優先順位は高い

教育講演に続いてオンライン禁煙治療と禁煙治療用アプリそれぞれの概要と臨床実地使用体験例が発表されました。「三位一体の禁煙推進」の「治療」のメイン企画でした。

- ②「オリンピックを前に受動喫煙対策は今」
オリンピックパラリンピックに向けて制定された改正健康増進法が2020年4月に全面施行されます。尾崎治夫東京都医師会長による東京の取り組みをはじめ、千葉市、山形県の先進的な取り組み、議員から見た受動喫煙対策のこれから、大学の禁煙化の発表が行われました。「三位一体の禁煙推進」の「環境」のメイン企画でした。
- ③「新型タバコ時代のタバコ対策」
すべての医療者が加熱式タバコに関する確かな助言をできるように田淵貴大先生が座長と演者を務め、会場と双方向のやり取りが行われました。
- ④「精神科における禁煙推進」
精神疾患患者の治療と精神科病院における禁煙推進の実践について4人の演者から発表いただき、活発な質疑応答が行われました。

6. 特別企画、特別セミナー、専門セミナー

- ① スポーツDrのためのタバコの知識
スポーツ関係の方にスポーツとタバコのことを知っていただきたいと企画、産婦人科と整形外科のスポーツDrに講師を依頼し、日本医師会認定健康スポーツ医学再研修会2単位がとれる学術総会内初のセミナーとなりました。
- ② ゼロから進める地域の禁煙化推進
2020年4月から全面施行の改正健康増進法を前

に地域での禁煙が推進される一方、課題も出るだろうと鈴木隆宏さんに依頼、2時間たっぷりの企画でした。

- ③ 喫煙防止教育
「三位一体の禁煙推進」の「教育」のメイン企画でした。
山形から4人の演者が保育園から大学までの喫煙防止教育のアイデアやコツを全国に向けて発信しました。用意したけむけむイヤイヤ体操のCD-ROM300枚はあっという間になくなりました。「タバコと健康」という無料のリーフレットは隠れたベストセラーで全国から引き合いがあります。
- ④ 改正健康増進法で求められる職場の喫煙対策と加熱式タバコ対策
こちらは、産業医の先生方に禁煙推進に取り組んでいただきたいと企画、日本医師会認定産業医学研修会・生涯研修単位4単位(実地2.0単位、専門2.0単位)取得できる初企画でした。事前申込みをはるかに上回る170人以上の方の参加希望があり、資料等が足りなくなりました。講師の先生方に適切な対応をしていただき、ありがとうございました。
- ⑤ 産婦人科セミナー
伊藤真理子先生による日本産婦人科医会研修参加証および日本産科婦人科学会や日本専門医機構の単位を取得できる初めてのセミナーとなりました。
- ⑥ 特別セミナー
タバコに関して本質を突いた多数の優れた記事を書いておられる石田雅彦さんにジャーナリストの視点から講演いただきました。



写真4 シンポジウムⅡ「オリンピックを前に受動喫煙対策は今」

- ⑦ 今年は歯科医師委員会と薬剤師委員会の初めての合同ワークショップとなり、充実のセッションでした。
- ⑧ 熊本大会から始まり毎回人気のナースのための禁煙スイーツセミナー、今回は事前申込みではなく当日朝の整理券での申込みとしました。山形えりすぐりのスイーツとともに学びと仲間作りの場になったようです。

7. 一般演題

口演64(うち正子賞8)・ポスター49、あわせて123演題の発表がありました。プログラムがタイトであったため、ポスター発表の質疑応答時間が短く、より効率的な議論のために、質問や賞賛、共感する点については、付箋紙に記入してポスターに貼付していただきました。

8. 第4回日本禁煙学会雑誌・優秀論文賞、第3回 繁田正子賞、第1回GRP賞(草の根活動賞)

- ① 第4回日本禁煙学会雑誌・優秀論文賞は総会報告の場で発表、表彰されました。原著論文11篇の中から、山形大学医学部看護学科の松浪容子先生の論文「福祉事務所現業員による生活保護受給者に対する 禁煙支援の実態と社会的ニコチン依存」(日本禁煙学会雑誌 第13号5号)が選ばれました。http://www.jstc.or.jp/uploads/uploads/files/journal/gakkaisi_181231_101.pdf
- ② 第3回になる繁田正子賞セッションは全8演題が発表され、慶應大学医学部の正木克宜先生が「新規開発禁煙支援スマートフォンアプリの禁煙外来での長期的禁煙継続効果」で最優秀賞を受賞されました。
- ③ 今回が第1回となるGRP賞は、香川大会実行委員長で学会理事の森田純二先生の提案で創設され、山形県の荒砥高校が「地域と連携した喫煙防止教育～生徒保健委員を中心とした13年間の取り組み成果～」で、最優秀賞に輝きました。
- ②③の賞は懇親会の場で発表、表彰されました。

9. 共催セミナー

1日目は新型タバコ、2日目は周術期禁煙の興味深いテーマによるランチョンセミナーで、テルサホールがいっぱいになりました。

10. 交流セッション

今年心理学委員会、母子保健委員会が設立され、交流の場としてのセッションを設けました。弁護士セッションも行い、3つとも初のセッションとなりました。

11. 関連事業

① 市民公開講座

山形県四師会禁煙推進委員会が企画運営、今年度担当の県看護協会の統括が見事でした。3つの面白楽しいショー&レクチャー、山形の誇る歌姫朝倉さやを交えたトークセッション、そして朝倉さやミニライブで大いに盛りあがりました。

② 禁煙治療セミナー「動機づけ面接初級編」

ベテラントレーナーとファシリテーターにより3時間コースで行われました。2日目の午後で翌日の仕事のために参加がかなわなかった方が多かったように思います。地方開催の弱点です。

③ 認定指導者試験・専門指導者試験

115名と予想を超える申し込みがあり、会場変更を検討する状況でした。次の④⑤の禁煙サポーターセミナーが受験者増の寄与要因の一つになったと考えられました。

④ タバコ依存症治療の専門家とサポーターの育成セミナー in 山形

グローバルブリッジジャパンプロジェクトとしてファイザー・グローバルメディカルグラントの助成を受けおこなった全国8か所での地域セミナーの締めセミナーとなりました。

<https://gbsmokefree2019.jimdofree.com/>

⑤ 禁煙サポーター認定講習会

山形県内で2019年5月から10月までに9回集中して行いました。

12. 開会式と閉会式

開会式ではオープニングセレモニーとして出羽こども園の園児による「けむけむイヤイヤ体操」が元氣よく披露されました。

山形での学術総会をお引き受けしたときにすぐに考えたのが、全山形県議会議員、山形市議会議員に開会式へのご案内をして出席していただき、禁煙学会の熱い雰囲気を感じ取って禁煙推進の重要性を理解いただきたい、受動喫煙防止対策をお願いしたいということでした。開会式には山形県議

会議員、山形市議会議員をはじめ県内の医療関係団体の長に出席いただき、感謝とともに今後の連携をお願いし御活躍を祈念したところです。

閉会式では中目千之名誉大会長から次回開催地の佐藤武寿福島県医師会長に引き継ぎが行われました。

最後に

「学術総会の評価は『数、質、収支が黒』で、目指せ1,000人はクリア、考えに考えた盛りだくさんのプログラムで質も○でいいのでは、多分結構な黒字」と終了後の実行委員会で申し上げたら名誉大会長から「数だよ、数!」といわれました。本当に皆様のおかげです。

禁煙推進にかかわっていてありがたいのは、日本全国のさまざまな分野のさまざまな職種の方々とつながりができることです。皆様それぞれの立場で素晴らしい能力を持ち活動されている方が多いのに驚嘆します。手前味噌になりますが、山形の実行委員もしかりです。今回の学術総会はこのつながりにより、プログラムや企画運営ができたと思

います。

運営会社に依頼したのはホームページと参加宿泊申し込み、当日のスライド上映のみで、他はほとんど自分たちでやりました。当日の運営、至らぬ点多々あったとは思いますが、演者の皆様の御協力、座長の先生方のマネージメント、当日運営協力の皆様のサポート等により、大方の参加者に満足していただけた会になったようです。収支には余裕ができました。これを山形大会のレガシーとして活用することを考えているところです。

ちょうどこの原稿を書き始めた時に尊敬する中村哲医師の訃報が伝えられました。650,000人ものアフガニスタン人の生活を支えた偉業に及ぶべくもありませんが、自分には何ができるかを考えました。たくさんの命を救う方法、「脱ニコチン!」。一人では本当に微力ではありますが、命を守るタバコのない世界のために、これからもつながりを大事にして尽力したいと改めて思った次第です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。福島でお会いしましょう!



写真5 山形メンバー がんばりました!